

## 厚木支部 気楽な散策会 #6 実施報告

### 「藤沢宿」

令和6年6月6日

今回は東海道藤沢宿を散策しました。藤沢宿は鎌倉末期・室町時代の頃より時宗の総本山「遊行寺」の門前町として栄え、江戸時代になると東海道の江戸から6番目の宿場町となりました。さらに人気の行楽地江の島、大山への分岐があったことから、多くの人々が行き交い、宿場の諸施設跡が残されています。明治時代になると流通の中心地として商家が集まり、現在でも蔵や町屋が散在し、一部の蔵は内部を改装し商店として利用されています。

始めに藤沢市役所展望デッキに向かいました。市民でもなかなか訪れませんが、正面に見える藤沢駅の真上に富士山、左手のビルの間から江の島が望める隠れた絶景地です。今日は残念ながら曇天で絶景を見ることは叶いませんでした。

続いて「江の島弁財天道標」を確認しながら旧江の島道を歩き、「ふじさわ宿交流館」で休憩です。ここには旅人の携行道具や東海道の資料などを展示する郷土資料室があります。宿場の模型に江戸時代の藤沢宿の賑わいを思い浮かべました。

遊行寺に向かいます。大きな寺院で勅使門の役割もあったという中雀門、樹齢700年といわれる大銀杏などが残されています。遊行寺の横には正月の箱根駅伝で名前が挙がる「遊行寺坂」があります。我々は坂を下ったのですが、駅伝の復路で選手が苦しうに駆け上るのも納得できる急坂でした。

旧東海道に沿って商家を巡ります。茶や紙の間屋を営んでいた「桔梗屋」の黒漆喰塗りの壁、土蔵は江戸時代のものです。「関次商店」は明治時代の穀物蔵を改装して、飲食スペースのあるパン屋として使われています。内部に入らせてもらうと、外部から隔離されたような静かさと涼しさが感じられました。

散策は藤沢本町で終了とし、小田急線で藤沢駅に戻り、磯丸水産で懇親会に移りました。生ビールで乾杯すると、シラスのサラダや卓上での網焼きなど魚介類を中心とした肴でお酒も進み、気が付けば各人5杯以上グラスが空くという盛り上がりとなりました。

藤沢の鎌倉時代から江戸時代を経て現代の風景までを見る散策会となりました。今後も地元の見どころを巡る会を計画して行きます。興味を持たれた方は是非ご参加下さい。



ふじさわ宿交流館にて  
左から 飯島(46S)、田村(修 45S)、望月(35C)、  
岡村(45S)、梶原(修 58E)、



懇親会場にて